

男女共同参画週間に係る周知啓発活動等の実施結果について



鴨川市 企画政策課
平成27年3月

1 男女共同参画週間に係る周知啓発活動について

(1) 趣旨

男女共同参画社会基本法の目的や基本理念について市民の理解を深めるため、国が定める「男女共同参画週間（毎年6月23日から29日までの1週間）」に合わせ、男女共同参画に係る鴨川市の取組みを実施するもの。

(2) 取組内容及び実施結果

1) 男女共同参画啓発キャンペーン

- ・実施主体 鴨川市企画政策課・健康推進課
- ・日 時 平成26年6月22日（日）午前10時から午後0時まで
- ・場 所 ベイシア鴨川店
カインズホーム鴨川店
イオン鴨川店

・概 要

男女共同参画に関する基本的な考え方やDV（ドメスティック・バイオレンス）に関する市や県の相談窓口の周知を図るため、上記商業施設の来店者に対し、関連するチラシ及び啓発グッズ1,000セットを配布した。

*活動の結果

啓発キャンペーンとして実施することにより、男女共同参画に係る本市の活動について市民にPRする機会となることに加え、「男女共同参画とはどのようなことか」を考えていただく契機ともなることから、市民に対する直接的な周知の方法として、より実効性の高い取組みとなった。

カインズホーム鴨川店



イオン鴨川店



ベイシア鴨川店



2) 市主要施設への特設コーナーの設置

- ・実施主体 鴨川市企画政策課
- ・期 間 平成 26 年 6 月 19 日（木）から 6 月 30 日（月）までの 12 日間
- ・設置施設 鴨川市役所本庁舎
鴨川市総合保健福祉会館（ふれあいセンター）
天津小湊支所
子育て総合支援センター
- ・概 要

男女共同参画社会の実現に向けた考え方や、DVの相談窓口などに関する市民への周知啓発を図るため、市主要施設に特設コーナーを設置し、国や県、市が発行する 15 種類のチラシやパンフレットを配架した。

＊活動の結果

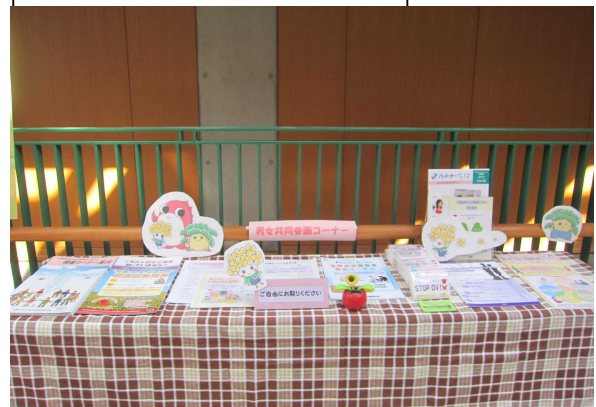
各チラシ等の発行状況については、全体の配架数が 800 部に対し、発行数が 98 部であることから、男女共同参画に対する市民の関心は依然として低い状況にあると考えられる。

※ 詳細については、別表「チラシ等配架及び配布状況一覧」を参照。

鴨川市役所本庁舎



鴨川市総合保健福祉会館



天津小湊支所



子育て総合支援センター



チラシ等配架及び配布状況一覧

(1) 施設別 配布部数 [部 (括弧内は構成割合)]

施 設 名	平成 26 年度 (A)	平成 25 年度 (B)	差 (A) - (B)
市役所本庁舎	28 (28.6%)	8 (27.6%)	20
総合保健福祉会館	25 (25.5%)	7 (24.1%)	18
天津小湊支所	22 (22.4%)	13 (44.8%)	9
福祉総合相談センター・天津小湊		0 (0.0%)	0
子育て総合支援センター	23 (23.5%)	1 (3.5%)	22
計	98 (100.0%)	29 (100.0%)	69

(2) 配架物の分野別 配布部数 [部 (括弧内は構成割合)]

配架物の関係分野	平成 26 年度 (A)	平成 25 年度 (B)	差 (A) - (B)
男女共同参画全般	13 (13.3%)	22 (75.9%)	△ 9
ドメスティック・バイオレンス	73 (74.5%)	1 (3.4%)	72
ワークライフ・バランス	6 (6.1%)	6 (20.7%)	0
子育て	6 (6.1%)	0 (0.0%)	6
計	98 (100.0%)	29 (100.0%)	69

(3) 総括

まず、全体の配布部数については、昨年度が 29 部であったのに対して本年度は 98 部と 69 部の増加となった、これは、本年度から採用した啓発物の設置による一定の効果と見られるものの、配布部数 98 部は全配架部数 800 部の 1 割強程度であることから、本市内における男女共同参画についての関心は依然として低く、引き続き経過を見ていく必要がある。

なお、施設別に見ると、4 施設の配布部数は概ね平均的な数値となった。今後についてもこの 4 施設での配布を継続して実施していければと考えている。

また、配架物の分野別に見ると、DV (ドメスティック・バイオレンス) の防止に関するものが 73 部・74.5%と昨年度と比べて大きく配布部数を伸ばし、次いで、県・市の計画や情報誌など、男女共同参画全般に関するものが 13 部・13.3%、ワークライフバランス (6 部・6.1%)、子育て (6 部・6.1%) の順となった。

2 中学校における男女共同参画セミナーについて

(1) 趣旨

男女共同参画社会の実現に向けて、固定的な性別役割分担意識等の解消及び男女平等意識の醸成を目的とした意識啓発を推進するため、市内の中学生を対象とした男女共同参画に係るセミナーを開催するもの。

(2) 取組内容及び開催結果

- ・実施主体 鴨川市企画政策課
- ・日 時 平成 26 年 10 月 31 日(金) 午後 1 時 40 分から 3 時 20 分まで
- ・場 所 鴨川市立長狭中学校 2 階多目的室
- ・テ ー マ 「男女共同参画とは」
(資料：「千葉県における男女共同参画に関するとりくみ」)
- ・講 師 小林 悟氏(千葉県総合企画部男女共同参画課企画調整班 主査)
- ・参加者 鴨川市立長狭中学校 中学 3 年生の生徒 39 名
- ・概 要

長狭中学校の 3 年生を対象に、「男女共同参画」をテーマに、県男女共同参画課職員によるセミナーを授業形式により実施した。

また、セミナー終了後に参加者の感想を求めるとともに、中学生の男女共同参画に係る意識の現状を捉えるべく、アンケートを実施した。

*セミナーの内容

県の職員である講師より、固定的性別役割分担意識の解消についての必要性和、家庭や学校、職場や地域などの身近な環境における男女共同参画社会の在り方について、ご講演いただいた。

まず講師から、固定的性別役割分担意識に関するクイズ問題を出題し、答えを考えてみるよう生徒に促した。出題の内容は、[船が沈没し、船長以下乗組員が全員亡くなった。この船長の娘

は「これからはお母さんと力を合わせて頑張って」と声を掛けられると、その言葉に驚いた様子を見せる。これはなぜか。]というもの。この答えは、[お母さんが船長だったため。]で、講師から、船長と言われてイメージしたのが男性ではなかったかと問いかけられ、このような思い込みを変えていくことが、男女共同参画の考え方であると説明されると、多くの生徒が納得した様子であった。

男女共同参画社会については、「男女が互いにその人権を尊重しつつ、ともに責任も分かち合い、男性も女性も個性と能力を十分に発揮することができる社会」と説明した。

また講師が教員として働いていた時には、土日も家にいないため、家族から「我が家は母子家庭」と言われていたが、現在は土日が休みで、料理を作



るなど家事を行っていると話す。固定的性別役割分担意識について、「男性がスーパーで買い物をしている、洗濯物を干しているところを見たら、皆さんはどのように感じるか」と生徒に投げ掛けた。

続いて、学校での男女共同参画は、最も取組みの進んでいる分野であり、生徒に「学校で区別や差別をされていると感じることがあるか」と問うが、特に反応は無かった。学校に比べ取組みの遅れている分野が職場であり、日本の労働力維持のためにも、今後取り組むべき重要な課題であると話す。

講師の居住する地域では、女性は神輿に触ってはいけないという慣習があり、理由は「穢れるから」という失礼な話だが、現にそのような地域もあるということだった。また、地域社会では、退職した男性が家に引き篋もってしまうという現象が起こっており、この原因は、男性が退職前は仕事ばかりで、地域に知り合いや話し相手がいなかったためというものだった。

東日本大震災の時には、女性の仕事は避難所での炊き出し、男性の仕事は街の瓦礫等の片付けとなり、後日、男性には給料が出て女性には出なかったため、これが大きな問題となったとのこと。この問題には、女性が炊事をするのは当たり前であるという考え方が根底にあり、問題解決のためには、このような意識を改めていくことが必要であると訴えた。



最後に、生徒に向けて、「男性だから女性だからとか、若いから高齢だからではなくて、皆さんには自分らしく生きてもらいたい」と話し、さらに、「今は性別による区別を受けない環境にあっても、社会に出れば多くの問題に直面することとなる。現状を変えていかなければいけないということを覚えていてもらいたい」と伝えた。

* 取組みの結果

男女平等意識の醸成を目的とした意識啓発を推進するため、学校の授業で男女共同参画を学ぶ機会のある中学生を対象にセミナーを開催した。参加者に対して、より分かりやすく、かつ聞き慣れた環境においての実施としたため、講師と参加者がコミュニケーションを取り、テーマの堅苦しさを緩和するようなセミナーとなった。今後の取組みにおいても、市内中学校との連携のもと、多くの人に固定的性別役割分担意識の解消が図られるよう、よりよい方法などを検討しながら開催していくこととしたい。

アンケート集計結果報告書

1 調査の目的

セミナーの参加者に対し、聴講後の感想を求めるとともに、男女共同参画に係る意識の現状を捉えるべく、アンケート調査を実施した。

2 調査の概要

- (1) 調査日：平成 26 年 10 月 31 日
- (2) 対象者：鴨川市立長狭中学校 中学 3 年生の生徒 39 名
- (3) 回収数：n（全体数）＝39 名（回収率：100%）
- (4) 調査方法：セミナー終了後に会場にて回収

3 調査項目

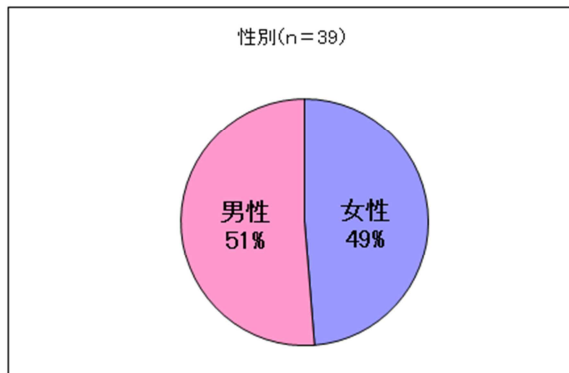
性別、「男女共同参画」・「DV」の言葉の認知度、家庭や学校における固定的な性別役割分担意識、性別の違いによる不平等、男女共同参画社会の実現に必要なこと、感想・自由意見

4 集計結果

(Q1)性別〔択一 n=39〕

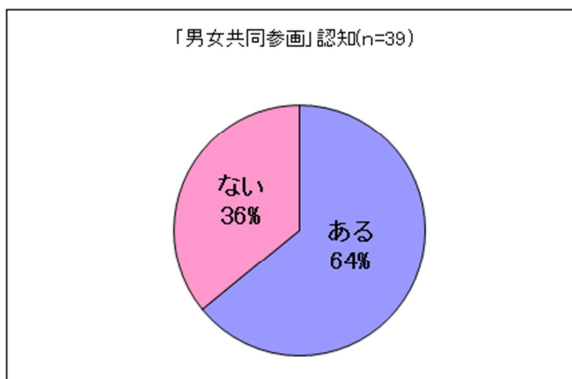
回答者の性別は、女性 49%、男性 51%となっている。

- 女性 19 名 (49%)
- 男性 20 名 (51%)



(Q2)「男女共同参画」の言葉の認知度〔択一 n=39〕

「男女共同参画」という言葉を聞いたことがあると答えた人が 64%、ないと答えた人が 36%となっている。

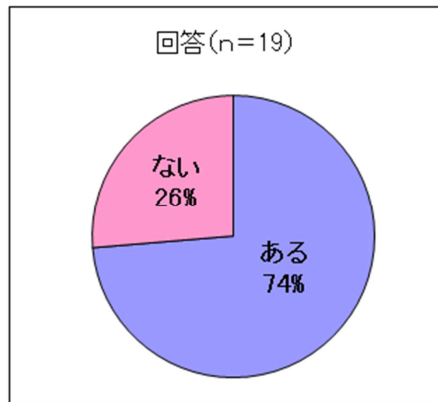


<男女別の回答>

○ 女性

「ある」 14 名 (74%)

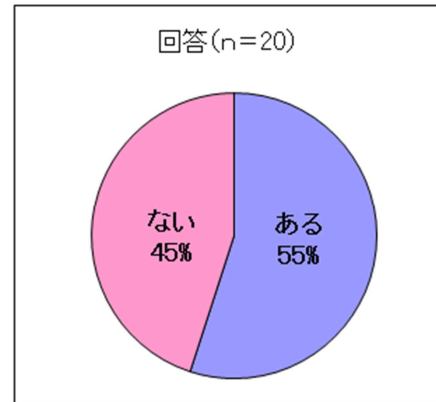
「ない」 5 名 (26%)



○ 男性

「ある」 11 名 (55%)

「ない」 9 名 (45%)

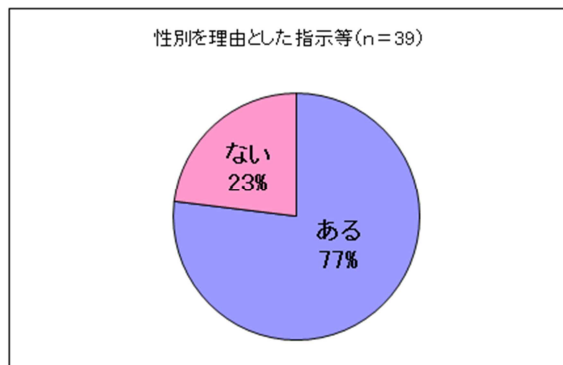


(Q3)「DV」の言葉の認知度〔択一 n=39〕

「DV」という言葉を聞いたことがあると答えた人が 100%であった。

(Q4-1)固定的な役割分担意識〔択一 n=39〕

家庭や学校において、性別を理由に指示を受けたり意見を言われたことがあると答えた人が 77%、ないと答えた人が 23%となっている。

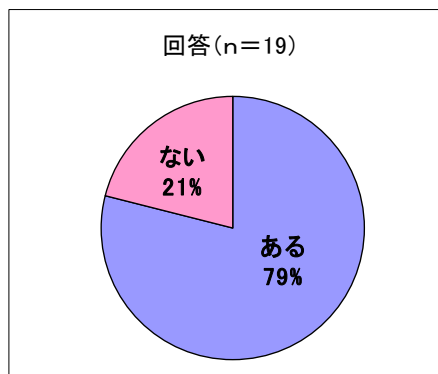


<男女別の回答>

○ 女性

「ある」 15 名 (79%)

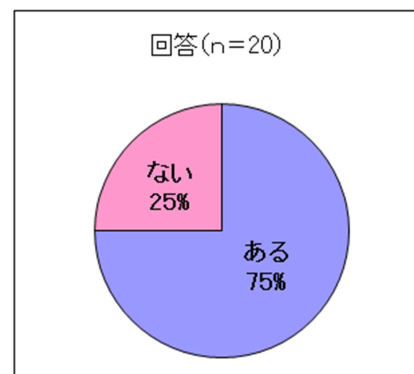
「ない」 4 名 (21%)



○ 男性

「ある」 15 名 (75%)

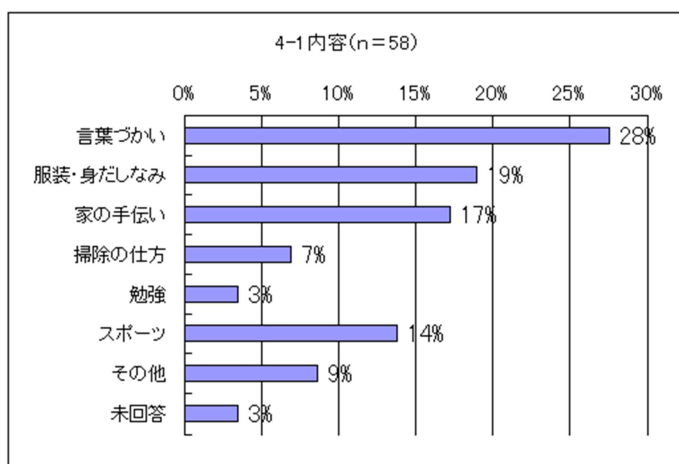
「ない」 5 名 (25%)



(Q4-2)Q4-1の内容〔複数選択 n=58〕

Q4-1で、「ある」と答えた人のうち、その内容について、「言葉づかい」が28%、次いで「服装・身だしなみ」が19%、「家の手伝い」が17%となっている。

○ 言葉づかい	16 件	(28%)
○ 服装・身だしなみ	11 件	(19%)
○ 家の手伝い	10 件	(17%)
○ 掃除の仕方	4 件	(7%)
○ 勉強	2 件	(3%)
○ スポーツ	8 件	(14%)
○ その他	5 件	(9%)
○ 未回答	2 件	(3%)



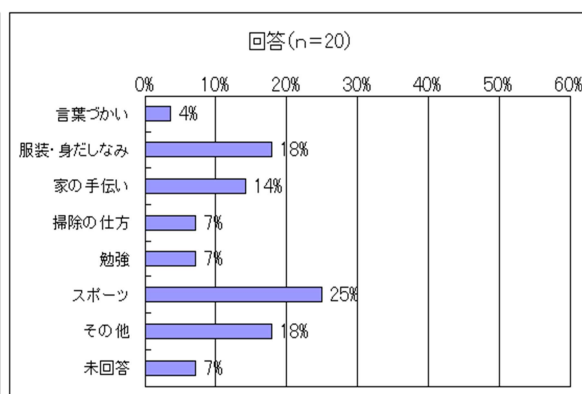
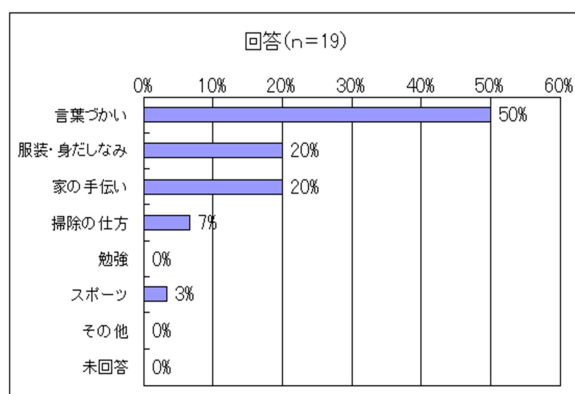
<男女別の回答>

○ 女性

「言葉づかい」	15 名	(50%)
「服装・身だしなみ」	6 名	(20%)
「家の手伝い」	6 名	(20%)
「掃除の仕方」	2 名	(7%)
「勉強」	0 名	(0%)
「スポーツ」	1 名	(3%)
「その他」	0 名	(0%)
「未回答」	0 名	(0%)

○ 男性

「言葉づかい」	1 名	(4%)
「服装・身だしなみ」	5 名	(18%)
「家の手伝い」	4 名	(14%)
「掃除の仕方」	2 名	(7%)
「勉強」	2 名	(7%)
「スポーツ」	7 名	(25%)
「その他」	5 名	(18%)
「未回答」	2 名	(7%)



※「その他」の回答内容：「先生の手伝い」、「物を運ぶ時」

(Q5)性別の違いによる不平等(一部)

○ 女性

- ・細かい作業をさせられる。
- ・男子と女子では怒られる度合いが違う。
- ・食べ物バイキングなどで、男女値段が違う。
- ・不平等というか、力仕事とかは基本男子がやったりするところ。
- ・男は私と言ってもおかしくないのに、女は俺という注意される。

○ 男性

- ・男子だから重そうな物を持つ。(同意見4名)

(Q6)男女共同参画社会の実現に必要なこと(一部)

○ 女性

- ・節度は守りつつ、男女関係なく接する。男子だからとか、女子だからとか、そういう言葉を使わない。
- ・男女の偏見をなくすことが大事だと思う。自由に、自分らしく生きていこうと思う。
- ・男女がお互いに尊敬し合っていきたい。
- ・女性も頑張るが、男性も育児や家事をもう少し手伝った方がいいと思う。
- ・男女の役割などにしばられず、挑戦していく気持ちを持つ。
- ・女性が働ける場所を今よりも増やす。
- ・男女がお互いに決めつけず、平等と考えて助け合っていけばいい。今日の授業のような内容を広く発信していく。

○ 男性

- ・まずは、女性が職業や職場に積極的に参加していけるよう、女性の雇用を増やし、仕事を分け合うなどして、日本の労働力となるようにしていくことが大切だと思う。
- ・女性の意見に耳を傾けると良くなると思う。
- ・異性を認め合い、尊重し合っていく。
- ・これは男性、あれは女性が、という固定概念を変える必要がある。
- ・その人が納得して幸せならそれでいいと思う。僕は今のままで十分幸せなので思うところはない。
- ・男女共同参画社会を意識しながら、生活をしていけばいいと思う。

(Q7)感想・自由意見(一部)

○ 女性

- ・話がとても面白く、例えなども分かりやすかったので、飽きずに聞くことができた。
- ・社会の授業で習った言葉を、詳しく分かりやすく説明してくれたので、とても興味を持った。
- ・授業で分からなかった語句の意味を知ることができた。
- ・男女平等なんだと思った。分かりやすい説明だったので、すごく良か

った。今日分かったことをこれから大切にしたい。

- ・難しい言葉を並べられて、理解するのに時間がかかる。
- ・言葉を聞いたことがあっても、意味の分からないことがあったが、今日のセミナーで詳しく内容を知ることができた。
- ・千葉県に男女共同参画課があり、男女が平等となるよう頑張っている人がいるということが分かった。また、世界から見ると、日本と韓国は遅れていることも分かった。安倍総理が女性の活躍を進めようとしているので、もっとニュースを見ようと思った。

○ 男性

- ・今回のセミナーで、男女の差が社会の中に多くあることに気がついた。
- ・普段あまり気にしていなかった男女共同参画について、知ることができた。
- ・男女共同参画が大切であることを、改めて知ることができた。
- ・難しい話だけど、なんとなく分かった。
- ・すごく難しい内容だった。
- ・男女による不平等なことがとても多いと思った。
- ・楽しく男女共同参画が学べて良かった。

※このほかに、「講師の話が面白く、理解しやすかった。」という感想が、男女共に多かった。

3 公民館教室への講師派遣事業について

(1) 趣旨

男女共同参画社会の実現に向けて、地域における男女共同参画に関する学習活動を支援し、身近な地域で学べる機会の充実を図るため、男女共同参画に関するテーマにより開催する公民館教室への講師派遣を行うもの。

(2) 取組内容及び開催結果

- ・実施主体 鴨川市企画政策課
- ・日 時 ①平成 26 年 11 月 6 日(木) 午後 1 時 30 分から 3 時 00 分まで
②平成 26 年 11 月 20 日(木) 午後 1 時 30 分から 3 時 00 分まで
- ・場 所 鴨川市中央公民館 1 階講堂
- ・教 室 名 「実践！男女(みんな)で学ぶ介護教室」
- ・講 師 ①佐伯 孝一氏（亀田総合病院理学療法士）
②川名 延江氏（訪問介護フローラ代表）
- ・参 加 者 14 名（男性 4 名、女性 10 名）
- ・概 要

市内公民館との連携により、男女共同参画に関するテーマにより開催する公民館教室のため、テーマに沿った講演が可能な講師を派遣した。

平成 26 年度の事業として、「男女が共に介護と向き合い、性別に関わりなく介護を行うための学習支援」をテーマに、亀田総合病院の理学療法士や訪問介護フローラの代表(看護師)に講師を依頼し、中央公民館において、車椅子等を活用した実技やおむつの使用方法を学ぶための介護教室を開催した。

*教室の内容

①理学療法士として多くの人のリハビリを支援している講師より、日頃から介護が必要な状態とならないことが重要であり、そのためには、歩行機能の低下を防ぐ必要があるとの説明があった。また家庭や社会における介護の担い手は、男性も増えてはきているものの、依然として女性の比率は高い。しかし現代においては、女性の働く力がより必要とされることから、今後は性別を問わず、家族が一体となって介護を担うべきであるとの考えを話した。



このほか、日常生活の中で簡単に実践できる運動療法や、杖歩行をする人の介助方法等を紹介した。男性は女性より腕力があり、力で支えようとするが、このことが却ってバランスを崩す要因となり転倒の危険性も高まることから、

小さな力でも楽に介助することができる方法などを説明し、これを参加者が体験した。さらに、ベッドから車椅子へ安全に体を移す介助方法について、実際に器具を使って説明を行った。

②現在は訪問介護事業所の代表であり、自身も看護師や介護支援専門員として働く講師から、排泄の介助を行うために知っておくべき基礎的な知識として、まず排泄のメカニズムについて説明があった。また排泄介助は、非常にデリケートな問題であり、例えば、介助される男性が、女性に行ってもらうことに抵抗がある場合もあるため、そういった意味では、今後は男性にも女性にも、多くの人に排泄介助を学んでももらいたいと話した。



講演の後半では、参加者が3つのグループに分かれ、グループごとに介助する役と介助される役となり、寝たきりの人のオムツを手際よく交換する方法や、身体の片側に麻痺がある場合の衣類の着脱介助について説明を受けた。参加者は、介助する側される側の双方の体勢や立ち位置等を工夫することにより、僅かな力で介助を行う方法を実際に体験をして学んだ。

* 取組みの結果

男女共同参画をより身近なものとして理解していただくため、「介護」の分野からテーマを検討するとともに、参加者の募集に当たっては、男性やご夫婦での参加を積極的に呼び掛け、結果として4名の男性、1組のご夫婦の参加が得られた。今後についても、公民館事業を所管する生涯学習課や各公民館との検討を重ね、男女ともに参加しやすいテーマの決定と内容に即した講師の派遣に取り組んでいくこととする。